

祝 秋の叙勲受章

片岡在住の中澤 紀雄さんが秋の叙勲で瑞宝双光章（社会福祉功労）を受章しました。中澤さんは、平成元年に社会福祉法人厚生会 特別養護老人ホーム八汐苑の介護職員となり、平成24年から同施設事務職員として勤務。平成25年7月から再度同施設介護職として勤められ現在も介護の第一線で活躍されています。

受章にあたり中澤さんは「この度の受章は身に余る光栄。今回の受章を励みに、これからも社会福祉発展のため、より一層仕事に励みたい」と抱負を話されたほか、「家

族や同僚の皆さんの支えがあったからこそ、30年間勤め続けることができた。支えていただいたみなさんに感謝したい」と話されました。



祝 市政功労者表彰受賞

11月1日（日）、矢板公民館で市政功労者に対する表彰式が行われました。

受賞された皆さんは、長年にわたり、各分野でご活躍された方、篤行に優れた方で、市長からはこれまでの功績に対する感謝の言葉とともに表彰状が手渡されました。



各分野で功労顕著な方			
宮崎 博	体育	石塚 禮子	民生委員
渡邊 克子		栗原 智子	
江面 政明	消防	小口マヌエ	
小川 丈晴		佐貫 和子	
高橋 三恵	統計	白石 京子	
築瀬 辰雄		白石 武美	
和田 安司	市議会議員	関谷 秀人	
八木澤寛夫	農業委員会委員	田中眞佐子	
平久井順一		築瀬 富夫	
篤行に優れた方			
大類 正雄	社会福祉施設への慰問	佐藤 愛子	各種奉仕活動
大類加代子		矢板中央高校女子バスケットボール部	
計良 正雄			
神長 惇子	援護厚生（老人給食）	岩見 忠昭	市に対し寄附された方
齋藤 博子		(株)グリーンヘリテージ	
佐藤 博子			
藤田ミチ子			
村上久美子		大進電気工事(株)	
渡邊 赫子	各種奉仕活動	(株)TKC	
安沢ほほみ会			
海瀬 元之			(順不同・敬称略)

感謝 川崎城跡公園をきれいに

10月24日（土）、川崎城跡公園で、川崎城跡公園再生市民会議の会員と市民の有志総勢23人が草刈りなどの美化活動を行いました。これは、市の観光スポットである公園の景観向上のため行っているもので、例年はこの活動を年3回実施していますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本年度は今回のみの実施となりました。

活動を終えた石下会長は「冬の時期は木々の葉も落ち山頂からまちが一望できるのでおすすめ。きれいに清掃したのでぜひ散策に来てもらいたい」と話されました。



祝 栃木県教育委員会表彰受賞

優良学校表彰

片岡小学校

片岡小学校は、県内小学校から選ばれた3校の「優良学校」の中で、「学習指導」部門では唯一の優良学校として表彰されました。小学校外国語の指導方法を3カ年に渡り、宇都宮大学と連携しながら「DVD教材による小学校英語科の授業革新」を研究し、DVD3部作を製作するなど、児童にとってより身近に取り組める英語教材で、児童の外国語への興味・関心を高めてきました。

また、「学び合い」を重視し、算数などで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだことで、教員の指導力向上と児童の学力向上につながったことが評価されました。



算数の授業で、タブレットを使い児童同士で話し合いを行う様子
モニターと教科書を併用し、外国語の授業を行う様子

学校支援ボランティア感謝状

男女共同参画啓発活動団体「グループあい」

「グループあい」は、小学校のPTA総会や期末PTAなどで、保護者が学年懇談などに参加しやすいよう、託児ボランティアを行っています。これにより、各学校で託児のために職員を配置する必要がなくなり、教職員全員がPTA総会や学年懇談などに参加できるようになりました。また、就学時健康診断時には、保護者の待ち時間を利用し、男女共同参画の視点に立った子育て講座なども行っています。

これらの学校支援に関するボランティア活動が評価されました。



学校内で子どもたちを預かり、学習の支援をしている様子
就学時健康診断で保護者に子育て学習をしている様子

祝 植物研究に多大な功績

10月26日（月）、長年にわたり市の植物研究をしてきた伊東 徹さんが、栃木県教育功労者表彰（文化財保護部門）の受賞報告と、研究成果をまとめた書籍『矢板市の植物』の寄贈に市長を表敬訪問しました。伊東さんは、市文化財保護審議会の委員を長く務めたほか、採取した約7,800種類の植物標本の作成や、昭和50年にミヤコタナゴを山田地区で発見するなどの功績が認められ受賞となりました。

伊東さんは「本を見て、子どもたちが植物に興味をもってもらえたら」と話していました。



▲（左）伊東 徹さん
書籍には市内で確認された約2,400種類の植物が紹介され、寄贈された60部は市内学校などに配付されました。また、作成した植物標本は郷土資料館で活用されています。

感謝 市内団体からの支援

11月2日（月）、新型コロナウイルス感染症対策に役立ててほしいと、市内山林所有者などで構成される「市木の駅プロジェクト実行委員会」から、矢板の良質な木材を使った飛沫防止パネル100枚の寄贈、市内建設事業者の有志で構成される「市建設業陸会」から、50万円の寄附を受けました。

両会長とも「コロナ対応に今後も協力していきたい」と話し、市長からは「市民や市内事業者の安心安全に向けて最大限活用させていただく」と話がありました。



▲（左）矢板市木の駅プロジェクト実行委員会 佐野 幸隆委員長
▲（左）矢板市建設業陸会 吉澤 博好会長

10/11 (日) 2年後の国体に向けて

とちぎフットボールセンターで、オリエンテーリング体験会が行われました。2022年のとちぎ国体で、県民なら誰でも参加できるデモンストレーション競技として本市が開催地となっていることから、競技の周知と国体の機運醸成を目的に行われました。体験会には7歳から89歳までの64人が参加し、地図とコンパスを使い、指定された関門を通過しながら全員が完走しました。参加者は「仲間と協力してゴールを目指すのが楽しい。2年後の国体でも参加してみたい」と話していました。



▲スタートと同時に配付される地図を見て、最初の関門を探す参加者
▼関門に着き、専用カードをかざす子どもたちのグループ

10/18 (日) すがすがしい秋晴れのもと

生涯学習館発着で、秋晴れのもと全国秋のウォークラリー大会 in 矢板が行われました。これは、身近なところでウォークラリーを楽しんでもらおうと市レクリエーション協会が企画したもので、当日は、家族連れや友人同士のグループなど18組58人が参加し、約3kmのコース内に設定された矢板武記念館や塩竈神社などのチェックポイントを巡り汗を流しました。家族連れの方たちは「家族で協力しながら問題を解くのが楽しかった。天気も良く、久しぶりにいい汗をかいた」と参加した感想を話してくれました。



ウォークラリーとは、コースのルートを示したコマ図をもとに、ゴールするまでの所要時間と非公表の設定時間との誤差を点数化したものと、コース内のチェックポイントで出題された問題の合計得点を競うレクリエーションスポーツです。

10/25 (日) ミヤコタナゴの生息調査

山田地区のため池で、ミヤコタナゴ保存会のメンバーなど34人が参加して生息調査が行われました。国の天然記念物で絶滅危惧種に指定されている「ミヤコタナゴ」の調査は毎年行われ、20回目となる今年の生息数は118匹と2014年の358匹をピークに6年連続で減少しましたが、稚魚の割合が多いため来年に期待が持てる結果となりました。保存会の鈴木会長は「ミヤコタナゴと貴重な自然環境を子どもたちに引き継いでいきたい」と話してくれました。



▲水が引いた池から、ミヤコタナゴの採取や天敵となるザリガニなどを除去している様子
▼池の底に溜まった泥を、バケツリレーでくみ上げる様子

10/31 (土) 林業の魅力を伝える

塩田ダム西側の山林で、矢板市林業・木材産業成長化推進協議会主催による植林体験ツアーが開かれ、高校生や子ども連れの家族など13人が参加しました。これは、将来林業に就業を考えている方や興味のある方を対象に行われたもので、杉苗の植林などの作業体験や伐倒した木の樹高や樹齢を当てるクイズなど、木に親しむ内容も盛り込まれました。参加した高校生は「高校の授業では林業を学ぶ機会が少ないので、林業体験や実際に働いている人の声を聞くことができるこのような機会はありがたい」と話してくれました。



▼伐倒した木の年輪を一生懸命数える子どもたち

10/31 (土) りんごランタンがお出迎え

矢板駅北側にある矢板にぎわい広場で、夜市「ハロウィンナイトマーケット YAITA」が開かれました。このイベントは、まちなかの活性化につながる活動を行っている「ヤイタロック」と矢板ふるさと支援センターが共催して開いたもので、会場は思い思いの衣装をした家族連れなど、多くの方でにぎわいました。また、来場者が特産のりんごをくりぬいて作ったさまざまな顔のジャック・オ・ランタンが飾られ、そこからもれるりんご色の灯りがハロウィンの夜を照らしました。



▲矢板駅西口活性化委員会「ヤイタロック」は、矢板にぎわい広場で、にぎわいマルシェ「勝手に朝市」を定期的に開催するなど、まちなかの活性化につながる活動を行っている団体です。

10/31 (土) 満月と大輪の共演

矢板消防署西側の内川周辺から、満月の夜空に向けて約2,000発の花火が打ち上げられました。これは、やいた花火大会実行委員会が、感染症の収束祈願と多くの人たちに元気を届けたいとの思いからシークレット花火を企画したものです。城の湯やすらぎの里キャンプ場を利用していた県外の方たちは「矢板の花火大会は毎年楽しみに来ていた。キャンプに来て花火が見られるとは」と、すてきな贈り物にとても感動したようでした。



動画はこちらから

▲毎年10月中旬に開催される「やいた花火大会」が、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続の中止となったことから企画されました。

11/1 (日) 文化の秋を堪能

生涯学習館で、毎年恒例の文化祭が開催され、出品された作品約300点がロビーや体育室に展示されました。今回は、密になるのを避けるため、会員1人1作品と出品を制限したため、会場には会員一押しの自信作が並びました。来場した方は、会員が丹精込めて作り上げた作品の一つひとつ丁寧に見て回り「どれを見ても作者の思いがこもった素晴らしい作品。作り上げるまでの地道な努力に感服しきり」と話し、文化の秋を堪能しているようでした。



11/14 (土) 4連覇! 全国の舞台へ

県グリーンスタジアムで、全国高校サッカー選手権大会栃木大会決勝戦が行われ、矢板中央高校が宇都宮短期大学附属高校に勝ち4年連続11度目の全国大会出場を決めました。試合は、幾度となく相手ゴールに迫るも、両チーム無得点のままPK戦へ。延長戦も含め試合時間100分を超える激闘を制し優勝を掴み取りました。高橋監督は「いつも応援してくださる矢板の皆さんに明るいニュースを届けることができうれしい。全国大会でも感動と興奮を届けたい」と意気込みを話してくれました。



▲前全国大会で3位の矢板中央高校は、1月2日(土)に2回戦から出場します。▼PK戦で優勝を決めた最終キッカーの#7MF大畑選手とファイナセーブを連発しゴールを守り抜いた#1GK藤井選手